

2004年 12月12日

妊娠出産をめぐる自己決定権を支える会第8回総会

## 受精卵診断の最前線

桐蔭横浜大学教授 法学博士  
弁護士 遠藤直哉

本稿は受精卵診断の最新の状況を報告するものである。以下、医学的情報については、大谷徹郎医師の調査研究に基づく情報を筆者が分かりやすく解説したものである。

### 第1 大谷徹郎医師の受精卵診断の実施

大谷徹郎医師は2004年9月から10月にかけて下記の通り受精卵診断を実施した。

(1) 共同実施者 Santiago Munne, Ph.D (サンティアゴ・ムネ) イエール大学

医学部産科婦人科生殖科学科助教授

2004年9月21日から10月5日まで来日し、神戸市大谷産婦人科において大谷医師及びスタッフと共に実施した。

(2) 実施した患者

- ① 相互転座9名
- ② ロバートソン転座1名
- ③ 受精卵の異数性が原因と考えられる習慣流産4名
- ④ 高齢(44歳)の不妊患者の異数性の検査1名  
を実施した。

(3) 妊娠例 5名

2004年11月5日までに5名の妊娠について胎児心拍による確認がされた。同日、記者会見をし、公表した。